

聾学校および聾児の学習・生活環境に関する研究 その2

—鳥取聾学校のリノベーション案の提案—

○濱尾 昂史 今井 計

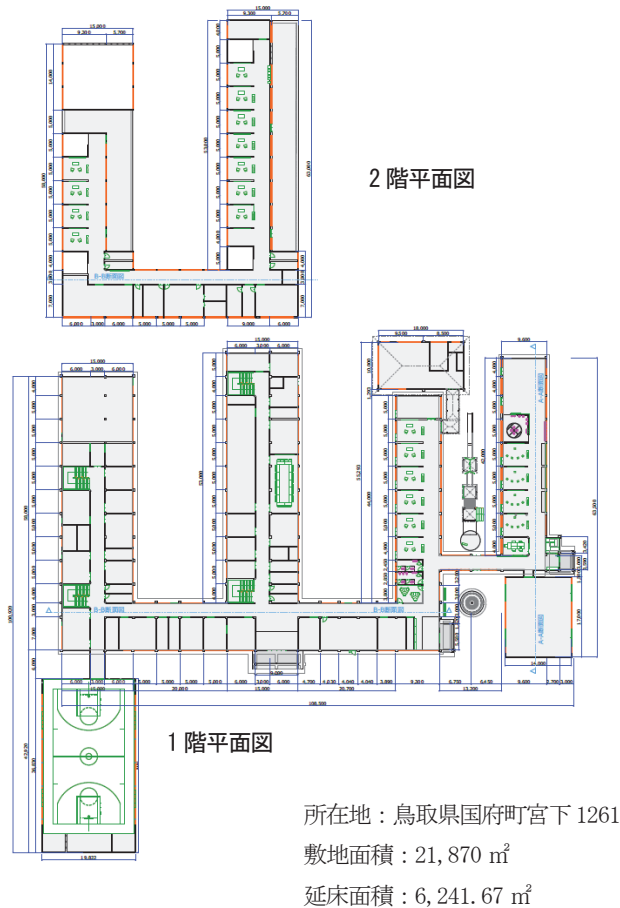
(三機工業株式会社) (筑波技術大学)

KEY WORDS : デフスペース、聴覚障害、学習・生活環境

1. はじめに

前報より、聾学生のデフスペースに関する意識調査を踏まえて、私の母校である鳥取聾学校をデフスペースの考えを取り入れたリノベーション案を報告する。尚、このリノベーション案は鳥取聾学校学校長から承諾を得た上で発表する。

2. 鳥取県立鳥取聾学校リノベーション案 (図面)



3. 設計コンセプト

聴覚障害児が安心して学習・生活できる学校を想定して、まずは校舎棟を中心に考えた。(寄宿舎は除いている)廊下や階段では衝突を防ぐために鏡や緩やかなカーブにしている。

幼・小学部：開放的な空間、五感を生かした玩具の設置

中・高等部：学習に集中できる空間づくり

保護者控え室：幼稚部の玄関の隣に設置

4. 予想される効果

鳥取聾学校に実際に改善案を送り、校長先生をはじめ、複数の先生に評価していただいた。回答は以下である。

・M先生【鳥取聾学校卒業生】

玄関前に職員室を置くという考え方はとても良いアイデアだと思います。これならたくさんの卒業生が聾学校に遊びに来やすくなりますね。理想としては、現在の事務室の隣に職員室を置くと良いでしょうね。

・N先生

[オープンスクールについて]開放的でいいのですが、隣の教室の先生の声が直接、聞こえます。声の大きな男の先生が隣の担任のときなんかは、自分の教室の先生の声よりもよく聞こえるというような状況もありました。最近、落ち着きのない生徒が何人かおり、授業中に隣の教室で騒がれたり、廊下を走られるとうるさい、と小学生の娘が言っていました。これは、賛否両論、分かれるところだと思います。

・S先生

保育園幼稚園は年齢に合わせてトイレや玄関に近い教室の設置をしていることがあるとおもうのでその辺りを参考にさせていただきたい。解放感があるトイレが良いが、男女別といった配慮はないのか。また、幼稚部職員も同トイレを使用することがあるので、考慮が必要である。廊下の角についての意見も良いが、現在は半球型の鏡を天井に設置することで防止を防いでいる。また、廊下の赤い中央ラインがあることも衝突防止の働きがあり、同時に右側を歩くといったマナーの習得にも繋がっている。

・校長先生

幼稚部中庭や児童生徒玄関前の広場など、子どもたちが遊んでいたりと、ベンチで話をしたりしている姿を想像すると、うきうきしてきます。子どもたちの毎日が楽しくなるような、そして学校に行きたいと思えるような校舎って、魅力的です。実際、校舎の改築は、毎年少しずつ必要に応じて進めています。

5. 今後の課題

寄宿舎等も含めて考えて行くこと、老朽化している聾学校のリノベーションの一考にさせていただきたいと思う。

(HAMAOK Takafumi, IMAI Hajime)